

■作家について

1975年、全羅北道・井邑生まれ。東国大学国語国文学科卒業。2001年「作家世界」新人賞を受賞してデビュー、백신애文学賞、오영수文学賞などを受賞している。

短編集

『사람의 신화』 (2005) 『봉접이 가라사대』 (2008) 『툼은 툼과 잤다』 (2012)

長編小説

『귀신의 시대』 (2006) 『청년 의사 장기려』 (2008) 『이슬람 정육점』 (2012)

『서울』 (2014)

■登場人物

老人…公園のベンチに座るのが日課。グレーのスーツ姿で気品を漂わせている。半地下のチョンセの部屋を出ようと不動産屋に行き、僕と会って言葉を交わすようになる。

僕…若くして保険会社の支店長になるが半年で辞表を提出、結婚を延期して、婚約者の勧めで公務員試験の準備中。公園に隣接した区立図書館に通い勉強している。婚約者には他の2人の男と天秤をかけられていたようだが、彼女の育ちを気にすることもなく、むしろ自分にはもったいな女性だと思っている。

ユニ…僕の婚約者。父は女をつくって家族を捨て、母は夫を恨み続けて鬱火病で亡くなり、兄はチリに移住。恵まれない家庭環境で孤独に育つが、離れて暮らす父を気にかけている。

中年男…僕に車のサイドミラーを壊されたことで関わるようになる。妻子がいて生活は苦しい。僕の前では鷹揚な人物。僕を通じて老人にアダルト動画のバイトを持ちかける。

■あらすじ

①いつも公園のベンチに座っている老人は、妙な気品を漂わせていて、周りの老人たちとは感じも違い、清掃ボランティアからも一目置かれる特別な存在だった。

公園は火葬場が昔あった場所で、図書館に隣接している。図書館に公務員試験の勉強をしにきていた僕は、老人が1週間あるいは数日ごとにベンチを移動しているのが気になって、ここ2カ月ほど、老人を観察している。初夏に入るところ、ランニングコースを敷き直す工事が始まり騒々しくなるが、それでも老人は公園の南側のベンチに座り続けていた。

②無職で結婚も先延ばしになっている僕の状況に、婚約者のユニはイライラをぶつけ、道ば

たで派手に喧嘩したことがあった。翌朝、足の指の激痛で病院に行く途中、サイドミラーが壊れた車を取り囲む一家を見た僕は、病院の帰り、車の持ち主の中年男に自分が壊したのだと謝ってしまう。理由を尋ねる中年男の優しい声に、僕はついユニとの喧嘩の顛末まで打ち明け、生活費1週間分の電動格納式ドアミラーを弁償し、酒まで飲み、親しい仲になる。

しばらくユニが電話に出なかったのが、振られたと思ったが、土曜日の午後、電話がかかってきて、冬の終わりの公園を散歩して仲直りする。その日、ユニから結婚しようと言われるが、父親からの援助は一切期待しないしてほしいとも言われる。

③僕は今住んでいるチョンセの部屋を出ようと不動産屋に斡旋を頼んでいるが、5000万ウォンの保証金が2000万アップしたために2カ月間、次の借り手が見つからない。あるとき不動産屋で僕は公園の老人に会う。老人は3000万ウォンのチョンセの半地下の部屋を出ようとしていた。

新婚生活を送る部屋もこの町内で探せとしつこく不動産屋に言われるが、図書館の休憩スペースで見かける老人たちを思い浮かべて、僕は断る。そのことを伝えると中年男は深刻そうに困った様子を見せる。

ユニが希望しているのは、8000万ウォンほどのチョンセの二部屋のヴィラで、ユニが2000万を用意し、僕の今のチョンセの保証金5000万に、あと1000万足せばいいのだが、会社を辞めたときに、販売員の不正の返済分、金を借りていた。

④その頃のある土曜日。朝、またもやサイドミラーを壊された中年男と出くわし、昼は老人と初めて公園で会話を交わし、夜は中年男が家まで訪ねてきて、一緒に飲みに行く。僕は老人と昼間話したことを中年男に聞かせる。

老人は、墓参りが面倒だという親不孝な理由で、母親を元火葬場だった公園で火葬していた。老人の妻もそこで火葬されたという。火葬した場所からは側に低い山が見えたが、正確な位置がわからず、それでいつも公園の南側のベンチを移動しているということだった。僕が抱いていた老人に対する畏敬の念が消える。

さらに老人は、さっき話をしていた紺色のツーピースを着た女性は、若いときの妻で、ワームホールを通過して現れたのだと口走る。その若き日の妻に自分と結婚すべきか相談されたという老人は、結婚するなど答えたという。自分も婚約者に聞かれたらそう答えると、僕は半ばやけになって中年男に話していた。

⑤翌朝、なぜ中年男が自分の部屋を知っていたのか疑問に思い、中年男の家の前まで行くが、ふと中年男の寂しさや自分に本心から関心を示してくれていたのではということに気づき、この町内に住んでもいいような気がしてくる。

日曜の午後、老人の半地下の部屋を探しまわるが、見つけ出せない。

⑥1週間後、アダルト動画を撮ろうとしている知人が情事のシーンに出演できる高尚で洗

練された老人を探していると、中年男に話を持ちかけられる。僕と中年男が例の老人を口説くために初夏の公園に出向くと、老人はあっさり承諾する。中年男は、ギャラの 500 万を老人の出演料 300 万、2 人の取り分 200 万としていた。

⑦ 3 日後、監督と中年男、僕、老人、20 歳になったばかりの女優の 5 人で飲んだ席で、僕は動画の後半部の情事シーンに出演する恋人役にキャスティングされる。僕がとんでもなく慌てていたのに比べ、老人は動じることなくいつもどおりだった。

⑧ 2 日後、高級住宅地を仰ぎ見る路地で、先に撮影場所に向かう老人を見送ったが、結局、僕が恋人役をやることはなかった。動画が「江南高級住宅街の隠しカメラ」というタイトルでネット上に公開された後になって、老人が慣れた様子で役をこなしたばかりか、一人二役を任されたことを知った。そうとも知らず、撮影が終わった後、老人と薄暗くなった路地で再会し、食堂で国産牛と一緒に食べた僕は、今後の予定を老人に尋ねる。40 近いヨンジュという娘が結婚するので、妻が最期の 1 年間暮らした老人ホームの居室に入居するつもりだと老人は答え、その居室の窓には、家を出た夫の帰りを待ち続けていたという妻の姿が映って消えず、それを見ながら余生を送ることにしたという。僕にそのことを話して聞かせた理由は、こっそり見た娘の結婚相手に似ているから、ということだった。

⑨ 3 日後、僕が不動産屋へ行くと老人の部屋は契約が成立し、次の入居者が決まっていた。老人はチョンセの保証金 3000 万と手持ちの 500 万を娘の口座に送金してくれと不動産屋に頼んだといい、僕は老人からの 300 万の封筒を不動産屋から受け取り、150 万を中年男に渡す。午後はユニを訪ね、1 時間半地下鉄に乗ってユニの父親の暮らす町を訪ねた。僕は教えられてもいないのに半地下の部屋の前に立っていた。部屋はがらんとして誰もおらず、次の入居者を連れてきた不動産屋に、前の住人は昨日出て行ったと教えられる。

⑩ ユニの通帳には大金が入金されているはずで、探しだせなかった老人の部屋はまさにここだろうと僕は思う。だが一銭もない老人が老人ホームに入れるはずはなかった。町のクリーニング屋にかかっていた、あの老人のスーツをレンタルして着た僕は、公園のベンチに座って移動しながら、老人が移動していたわけを理解し、まわりの老人たちを見ながら、中年男が言っていた、自分もああなるに違いないという言葉の思い出し、この町に住めるかもしれないという気がしていた。

■疑問点

- ・僕が受け取った 300 万
- ・僕の境遇、性格
- ・公園の老人とユニの父親は同一人物か

- ・僕と中年男の関係
- ・中年男の妻の態度
- ・老人の部屋を探しに行った僕

■感想など

僕が憧れるほど品よく見えた老人が、アダルト動画にも出たり、婚約者を苦勞させた父親であったり、一方では家族を捨てた父親であるのに、所持金を全額娘に送金したり、人間には一つの面だけでは計れない、いろいろな面がある。僕にしても然り。

俗っぽさを嫌って高尚な人間に憧れるような、ベンチの老人を美化するような文がいくつも出てくる。高尚な老人に憧れて、周囲の普通の老人たちには嫌悪感を覚えていたものの、自分も含め誰もが結局はああなるしかないのだと受け入れていく。혐오스럽지 않은 인간이란 처음부터 불가능했다. (最後のページ)